

# 広濟寺寺報

発行 浄土真宗本願寺派 福田山 廣濟寺

〒 933-0344 富山県高岡市笹川98

TEL(FAX) 0766-31-0096

E-Mail info@kosaiji.net

ホームページ

http://kosaiji.net/

## 法座のご案内

### 御正忌報恩講

一月十五日(火) 午後二時より  
十六日(水) 午前九時半・午後二時より

※ お勤め・法話共に、御堂ではなく、  
ストーブで暖かくした広間にて行います



## 今号の法語



# おまえも

# 死ぬぞ

釈尊

## 今号の内容

- ・ 広濟寺探検隊！ ～喚鐘かむしやう～
- ・ 住職コラム
- ・ 仏事のQ&A ～お寺で法事～
- ・ 千夏のきときと日記



今号は非常にインパクトのある法語になりました。何を隠そう、この法語は「輝け！お寺の掲示板大賞二〇一八」の大賞受賞作なんです。そんなコンクールがあったことにも驚きですが、何よりこの法語には私の心に鋭くそして深く突き刺さる強いメッセージ性があります。それはなぜか？この法語がまぎれもない「真実」をストレートに言っているからでしょう。

「死ぬ」というのは想像しにくいものですが、他人の「死」にであう中で、「死」が意味するものを知らされます。そしてその「死」は、他の誰でもない、私にも間違いなくやってくるのです。

お釈迦さま(釈尊)は、「死」から目をそむけ誤魔化しながら過ごす私に、「いのち」を教え、いかに歩むべきかを示してください。新年を迎える今だからこそ、私の「いのち」を見つめ直してみませんか？

# 広濟寺探検隊！

## 喚鐘に刻まれた歴史



喚鐘とは、お参りの開始を知らせる合図として打つ鐘のことです。お寺の法要の前に、「カーン、カンカンカン…」と聞こえてくるあの鐘です。「ゴーン」と響く屋外の梵鐘とは違って、喚鐘は御堂南側の室内にかかっています(写真参照)。

高さは五十センチ弱で、撞木と呼ばれる木槌のようなもので打ちます。打ち方も決まっております、打ち終わる頃に

進まれたとも刻まれています。実は当時広濟寺には喚鐘がなかったのです。いや元々はありましたが、当時だけなかったのです。これは先の戦争が原因

は腕はパンパン。京都の本願寺で打っているお坊さんは、腕の太さが違いますし、疲労骨折した方もおられるそうです。さてそんな喚鐘ですが、広濟寺の喚鐘を見ると、ビツクリするようないくつかのことが刻まれています。「安國寺 什物」(写真参照)。なぜ「広濟寺」じゃないの？

この喚鐘には、昭和二十一年六月にご門徒の松田爲次郎さんによって、長男の戦死を悼み、広濟寺什物として寄進されたとも刻まれています。



戦局の悪化とともに、国は「金属類回収令」によって武器生産に必要な金属資源を回収していきました。それは広濟寺も例外ではなく、大きな梵鐘はもちろん、喚鐘そして仏具に至るまで供出したと聞いています。

戦後に寄進いただいた現在の喚鐘にある「安國寺」の銘文が示すもの。調べてみたところ、現在は存在しないお寺なので、もしかしたら戦時中に同じように供出され、溶かされずに残ったものだったのかもしれない。喚鐘は戦争の歴史を刻む鐘でもありました。

元気に明るくお会いさせていただきました。合掌



**住職コラム**

寒冷というか深冷というか、とにかく寒くなつてまいりましたが、平成三十年という貴重な日数も残り僅かとなりました。本年は甚大な災害の多い年でありましたが、全国津々浦々では励まし助け合いながら頑張っている最中です。

長門市仙崎の金子みずささんの童謡に「見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ」(星とたんぽぽ)と詩わ





# お知らせ

二〇一八年

## 除夜の鐘

十二月三十一日(月)

午後十一時四十五分より

二〇一九年

## 元旦会

一月一日(火)

午前五時より

## 御正忌報恩講

一月十五日(火)

午後二時より

十六日(水)

午前九時半より

午後二時より

## 御講師

砺波組 明覚寺

林 要昭 師

# 除夜の鐘

12月31日(月)

午後11時45分～0時45分頃

※撞いている間も出入り自由です。  
いつでもお越しください。  
本堂におられる阿弥陀様にもお参りしましょう。

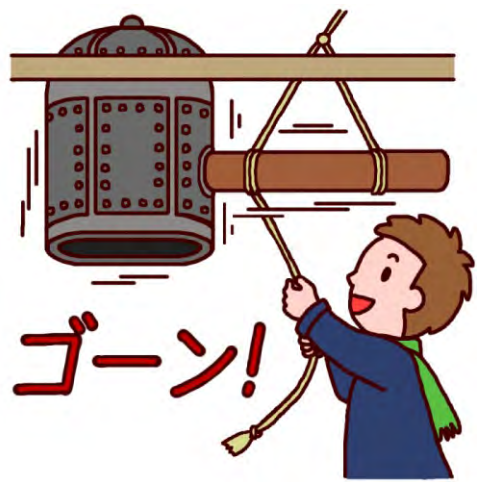


広濟寺仏教婦人会  
毎月第四土曜日  
午後七時半より

※一月・二月は休会します

※月参りについて

一月一日・二日・三日の三日間はお休みさせていただきます(祥月命日は除く)。



# 編集後記

先日「今年の漢字」が発表されました。今年は「災」。豪雨に台風そして地震と、多くの災害に見舞われた一年でした。振り返ってみれば、ここ富山県も昨冬は歴史的な大雪でしたね。今冬はどうなるのか気がかりです。

私たちには心配事がいっぱいです。思い通りにいかないのはもちろん、思わぬ事態に直面するのがこの世の中。

「生老病死」だってそうですよね。様々に悩み苦しんでいるのが人間でした。

阿弥陀さまという方は、そんな私をそのまま包んでくださる仏さまです。つらい時も悲しい時も、そしてうれしい時も。阿弥陀さまとご一緒です。尊い「いのち」を大切に、来年も歩ませていただきますように。